

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立第二中学校

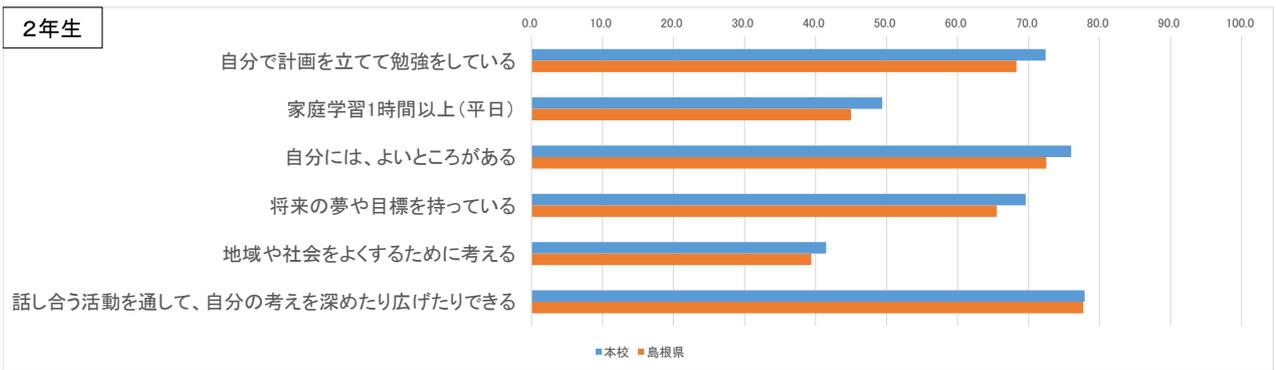
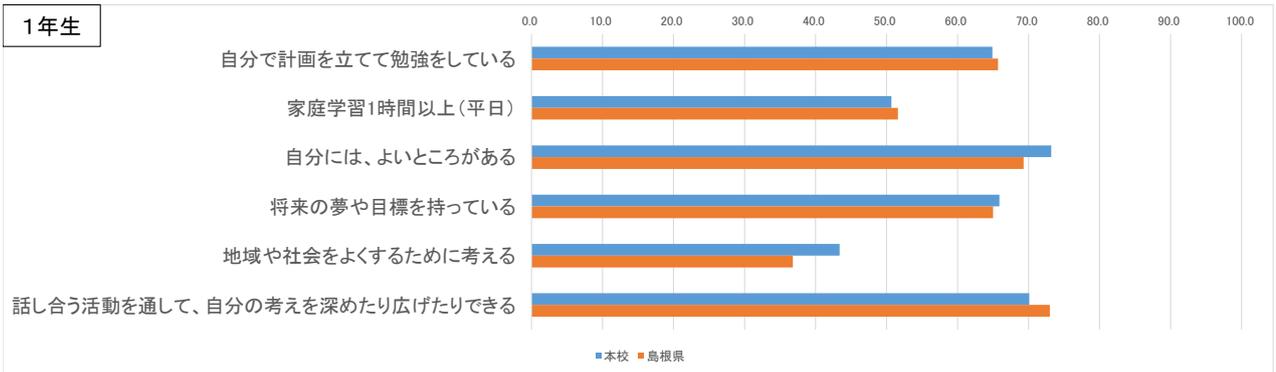
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○「話すこと・聞くこと」については、9割を超える正答率となっている。また、「情報の扱いに関する事項」については、全国平均を約4ポイント上回っている。 ●「知識・技能」の観点（「言葉の特徴や使いに関する事項」および「我が国の言語文化に関する事項」に関する領域）については正答率が県平均及び全国平均よりも大きく下回っている。すなわち、生徒たちの漢字力や語彙力の乏しさが顕著であるといえる。 ●授業の中で、語句調べをしたり、漢字テストの方法を工夫したりすることを通して、生徒の語彙力および漢字の知識を高める必要がある。	○いずれの分類項目においても、全国平均を上回る正答率となっている。特に「情報の扱いに関する事項」では、全国平均を6.1ポイントも上回る。 ○「言葉の特徴や使いに関する事項」は、8割近くの正答率であり、国語の基礎的な力が身に付いているといえる。 ●記述で答える問題の正答率が、他の解答形式に比べ低くなっている。授業でも「書くこと」の学習をさらに取り入れる必要がある。
数学	○どの分類項目でも県平均を上回る正答率となっている。 ○図形領域の正答率が高く、県平均も全国平均も上回っている。 ●全国平均や目標値よりも低い項目が多く、特に活用の分野を伸ばしていく必要がある。 ●記述で答える問題の正答率が、全国平均正答率を下回っている。数学用語を適切に使って表現する力を高めていく必要がある。	○どの分類項目でも県平均を上回る正答率となっている。特に「教科全体の基礎・活用の分類項目」では、県を8.1ポイントも上回る。 ○数学の3観点で見ても、3観点とも県平均を上回る。 ●「活用」主眼的に学習に取り組む態度の項目を全国平均正答率と比較すると、同程度の正答率で、他の良いポイントの項目よりは伸び率は純い。 ●記述で答える問題の正答率だけが、全国平均正答率を下回っている。適切な表現ができる力を高めていく指導が必要である。
英語	○「聞くこと」の値が県平均を上回る正答率となっている。 ○「英語で学習した知識を家の人に話している」値が県平均を上回っている。 ●「返された英語の答えは見直している」値が県平均を下回っており、やり方を工夫する必要がある。 ●「主体的に取り組む態度」が県平均を下回っている。	○「書くこと」と「記述」の正答率が高く、授業や自主学習の成果が出ている。 ○知識・技能の観点の数値が高く、小テストなどの成果が出ている。 ●「聞くこと」の領域の正答率が低いので、授業中に英語で指示したり、会話練習をさせたりする機会を増やす必要がある。 ●様々なシチュエーションを想定し、英語で表現する活動を増やす必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多い学習道具の準備などにもきちんと取り組んでいる生徒が多い。 ○「自分にはよいところがある」「地域や社会をよくするために考える」と答えた生徒が県平均より上回っている。 ●就寝時間が遅い生徒が多いことと、ゲームや動画などのメディア利用の時間が多いことについては、今後家庭に発信していく必要がある。 ●「地域や社会をよりよくするために考える」43ptである。総合的な学習の時間を通して地域理解を通して、地域の一員であるという姿勢を育てる必要がある。	○基本的な生活習慣に関わる項目は肯定的に答える生徒が多く生活習慣が身に付いている。また、学校生活においても挨拶、学習道具の準備などきちんと取り組んでいる生徒が多い。 ●「地域の行事に参加している」と答えた生徒が県平均より10ポイント程度下回っている。3年時の総合的な学習（職場体験学習等）を通して地域の一員として様々な行事に関わっていくとする姿勢を育てる必要がある。 ●「新聞記事を読んでいる」と答えた生徒が18ポイントである。各教科で新聞記事を活用した授業を行うなどして身近なものにとらえるような工夫が必要である。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 1年生 193 名 2年生 218 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)